

【水の里の旅コンテスト2019 応募企画】

【一般部門】

一般社団法人 ちの観光まちづくり推進機構

『御射鹿池と水の郷をめぐる 日帰りバスツアー』

(観光地域：長野県 茅野市 (奥蓼科・笹原))

【日程】	日帰り		
【実施時期】	夏 (実施時期：6月～9月)		
【定員】	20名 (最少催行人員：8名)	【お勧めする旅行者層】	・有名観光スポットを短時間でめぐるだけでなく、訪れた地域をより身近に感じ、旅を通じて新たな視点を獲得したいと考える、知的好奇心の高い旅行者。 ・美しい景観や自然や季節を大切に暮らすが、今後も続いてほしいと願う意識のある旅行者。
【旅行代金】	5,900円(税込) (大人1名)	【内 訳】 旅行代金に含まれるもの：昼食代、バス乗車代、ガイド料	
【企画趣旨 (伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>ちの観光まちづくり推進機構では、「ただ通り過ぎるのではなく、土地の人とふれ合い、土地の暮らしを身近に感じられる旅」としての「ちの旅」を掲げ、「受け継がれてきた豊かな自然や人の営みがこれから100年先にも続いていくこと」を目指し、地元で暮らす人々を「担い手」とし、地元で利益を還元できる体験プログラムをつくり、販売している。</p> <p>そんな「ちの旅」が企画・主催するバスツアーが、「御射鹿池と水の郷をめぐる 日帰りバスツアー」。</p> <p>御射鹿池(みしゃかいけ)は、標高1500mの山中にあり、静かな水面が四季折々の風景を鏡のように映すことで知られる風光明媚な池。日本を代表する画家、東山魁夷画伯の作品《緑響く》のモチーフとなったことでも知られ、その美しさは「一度は見てみたい絶景」ともいわれ、近年、訪れる方が後を絶たない。</p> <p>そんな御射鹿池には、秘密がある。実はこの美しい風景は「天然の池」ではなく、人の手でつくられたもの。農業に使うための水を一度溜めて、日に当てて温めるための「農業用温水ため池」。冷たすぎる八ヶ岳の水を稲作に利用するための、人々の知恵の結晶なのだ。</p> <p>御射鹿池の水を利用しているのは、標高1100mの「水の郷」茅野市笹原地区の方々。八ヶ岳を流れる「渋川」の水を農業に利用するための用水路、「北ノ沢せぎ」を笹原の住民たちが作ったのは、今から300年以上も前の江戸時代。それから、水を温めたり、酸性の水を薄めたりと、さまざまな試行錯誤と工夫の結果、笹原には今も美しい田園風景が広がっている。</p> <p>笹原地区は、人口262人の小さな集落。高齢化と少子化が進む集落を未来に残したいと願う地元の人々が、「ちの旅」のプログラム作りを進める機構スタッフの呼びかけに立ち上がった。</p> <p>地元の有志が集落全体を巻き込んで立ち上げた「笹原観光まちづくり協議会」。毎夜会議を繰り返し、大好きな自分たちの集落のいいところを伝えられるように勉強と準備を重ねたガイドが、ツアーで訪れた人々を笑顔で迎えてくれる。</p> <p>ツアーでは、自分がこの土地で暮らしてきた体験談を交えながら、御射鹿池の水を農業に使う工夫と、笹原のまちなかの歴史と暮らしの工夫を解説してもらい、山や水の恵みとの関わりと、人々の知恵が詰まった暮らしの話や、ただ通り過ぎるだけ、景観の美しさを眺めるだけではなく、より深く御射鹿池の魅力を知り、茅野に生きる人々が重ねてきた暮らしの知恵に触れ、人と自然との関わり方に改めて思いを馳せるような旅を提供する。</p>			
【安全確保のための配慮】	【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】		
地域ガイドとの協働プログラムにおいては、事故発生時の緊急対応および保険対応についてのマニュアルを作成し、当日の安全管理責任者との連絡体制を共有している。 現場での医師対応の必要性を判断したり救急処置ができるよう、消防署主催の救急救命講習を受講したスタッフがツアーに同行する他、猛暑日には参加者自身での熱中症対策を呼びかけるなど配慮している。	ただいくつかのスポットを順番に回るだけのバスツアーではなく、ツアー全体に通底するコンセプトを途切れずに感じてもらい、そこにあるストーリーを深く理解してもらえようように、企画に携わった機構のスタッフが「ちの旅案内人」としてバスに同乗してガイドを行い、それぞれのポイントをつなぐ役割を果たしている。		
【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】
①アルピコ交通株式会社	交通(バス運行)	③指北庵	食事(昼食)
②茅野バス観光株式会社	交通(バス運行)	④笹原観光まちづくり協議会	現地ガイド
【催行実績】	有		

【 行 程 表 】

1 日目	<p>10:45 集合・11:00 発 茅野駅前ちの旅案内所===◎指北庵（昼食・約 60 分）===○御射鹿池（約 20 分）=== ○笹原地区（まちあるき）（約 60 分）===15:00 頃茅野駅前（解散）</p> <p>※マークの説明：◎は入場観光、○は下車観光、===はバス移動となります。</p>
------	--

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【 ポイント 1 】	【 ポイント 2 】	【 ポイント 3 】
		
<p>【コメント】指北庵（しほくあん）（昼食） 昼食は築110年の古民家をリフォームしたカフェ「指北庵」で、このツアーのために特別に用意した郷土料理ランチを提供。 凍み豆腐、地元野菜など、郷土の食材を使うとともに、献立にも地域で伝統的につくられている料理を取り入れることで、地元の「ホンモノ」の食文化を知ってもらうことができる。さらに「御射鹿池」の水を利用して育った笹原産の食材を利用していただくことで、「御射鹿池の恵みを味覚でも実感」することができるようにしている。</p>	<p>【コメント】御射鹿池（みしゃかいけ） 東山魁夷画伯の日本画《緑響く》のモチーフとなったことでも知られ、「絶景スポット」として昨今注目されている池。 実は天然の池ではなく、山からの冷涼な水を日に当ててあたためるために昭和初期に作られた人工の温水ため池。その水は今でも笹原地区で、農業に利用されている。笹原の人にとっては「恵みの水」であり、地区の人たちが周囲の草刈りや整備を行っているため、景観が保たれている。</p>	<p>【コメント】御射鹿池 水は酸性が強く、魚や生きものはすめない。ふつうの藻や水草が生えないので水が濁らず、風が止まれば水面が鏡のようになる。代わりに、酸性に強いめずらしい苔「チャツボミゴケ」が生えていて、美しい緑色に見える。チャツボミゴケを取ってみんなに見せる。御射鹿池の水を農業に使うために、いくつかの工夫がある。ポイントは、「酸性度」と「温度」。当ツアーではその工夫について、実際にPH計で酸性度を測り、お客様に全員にご覧いただく。</p>
【 ポイント 4 】	【 ポイント 5 】	【 ポイント 6 】
		
<p>【コメント】笹原ため池 笹原地区によって管理されており、普段は一般の人は立ち入ることのできないスポット。御射鹿池から降りてきた酸性の水に、山から湧き出した清水を混ぜることで、水を薄めて酸性度を下げている。ふたつのため池によって、天然の川から引き込んだ水をより農業に適した水に変える工夫が行われた後、せぎとよばれる用水路を通して笹原に運ばれていく。</p>	<p>【コメント】笹原地区の景観（夏） 御射鹿池の水を農業に利用している笹原地区は、人口262人の小さな集落。集落の中をとおり「せぎ」（農業用水路）には透き通った水が流れ、水音が絶えない「水の郷」。またここは、八ヶ岳の麓、標高1100mにある「山の郷」でもあり、真冬には氷点下20℃になることもある厳しい環境の場所でもある。 370年前に開拓されたときの町割りをそのまま残した碁盤の目の構造、数多く残る立派な蔵と、それぞれの蔵につけられた鰻絵（こてえ）と呼ばれる漆喰製の見事なレリーフ、などを地元ガイドの解説を聞きながらご覧頂ける。</p>	<p>【コメント】エピローグ 笹原まちあるきの最後には、八ヶ岳の山々や茅野の市街地、笹原の田園風景を一望できる絶景ポイントが待っている。旅の最後にこの風景を目にした時、美しい御射鹿池の水が、笹原にたどり着いて田畑を潤す恵みの水であることを実感することが出来る。そして、笑顔で観光客を迎え入れ、ガイドしてくれた笹原の人々は、旅行者にとっての「また会いたい人」になり、誰もが懐かしさを感じるこのまちが、「また来たい場所」となる。</p>

【ポイント7】



【コメント】お土産品「御射鹿池の恵」
笹原地区の人々が新しく立ち上げた地元のブランド「御射鹿池の恵」。すべて笹原産の材料を使ったお米、甘酒、山ぐるみ、あぶらえ（えごま）などを、「御射鹿池の恵」のブランド名をつけて販売。ツアー全体のストーリーでもある「御射鹿池の水の恵」を家に帰ってからも思い出すことができるとともに、愛着を覚えた笹原の地域自体を応援することにもつながる土産品。